



ヨブと友 William Blake

さて、ヨブと親しいテマン人エリファズ、シユア人ビルダド、ナアマ人ツォファルの三人は、ヨブにふりかかった災難の一部始終を聞くと、見舞い慰めようと相談して、それぞれの国からやって来た。遠くからヨブを見ると、それと見分けられないほどの姿になっていた。嘆きの声をあげ、衣を裂き、天に向かって塵を振りまき、頭にかぶった。彼らは七日七晩、ヨブと共に地面に座っていたが、その激しい苦痛を見ると、話しかけることもできなかった。(ヨブ2:11) ヨブには夫の苦しみを見かねて「死ぬほうがマシだ」とさえ嘆く妻がいました。また、知識人と思われる友人がいました。

友人はヨブの嘆き、呻きを聞き、ヨブにひとこと言ってみようと言いはじめました。

まず、エリファズは考えてみなさい。罪のない人が滅ぼされ／正しい人が絶たれたことがあるかどうか。(ヨブ4:7)、見よ、幸いなのは／神の懲らしめを受ける人。全能者の戒めを拒んではならない。(ヨブ5:17)と暗に、また、一般論として、罪があるから裁かれていると責めます。

ビルダドはあなたの子らが／神に対して過ちを犯したからこそ／彼らをその罪の手にゆだねられたのだ。(ヨブ8:4)とヨブというよりは、子どもが罪を犯したと責めます。

ツォファルはまた、あなたの手からよこしまなことを遠ざけ／あなたの天幕に不正をとどめないなら／その時こそ／あなたは晴れ晴れと顔を上げ、動ずることなく／恐怖を抱くこともないだろう。(ヨブ11:14)とヨブによこしまと不正があったと責めました。三人とも、ヨブの苦難は罪の結果であると言うのです。

ヨブもそうであろうと思いつつ、自分にどんな罪と悪が、どれだけあるのか、思い悩み、それでも、自分が正しかったと訴えます。

二回目にエリファズは、罪の問題としてあなたを罪に定めるのはわたしではなく／あなた自身の口だ。あなたの唇があなたに不利な答えをするのだ。(ヨブ15:6)と無益な言葉を弄するヨブを責めます。

ビルダドは彼の力強い歩みも弱まり／自分自身の策略に倒れる。(ヨブ18:7)と浅知恵を責めます。

ツォファルはなぜなら、貧しい人々を虐げ見捨て／自ら建てもしない家を奪い取ったから。(ヨブ20:19)と痛烈にヨブの富の理由を強欲と断じます。

ヨブは友人たちから憐みの言葉でも、慰めの言葉でもない、非難の言葉を聞かされ、彼らに悪意を感じるのです。友人たちのほうが神に逆らっているのに、恵まれていると感じますが、わたしは知っている／わたしを贖う方は生きておられ／ついには塵の上に立たれるであろう。／この皮膚が損なわれようとも／この身をもって／わたしは神を仰ぎ見るであろう。(ヨブ19:25)と、神に希望を抱きます。

三回目にエリファズはあなたは甚だしく悪を行い／限りもなく不正を行ったのではないか。／あなたは兄弟から質草を取って何も与えず／既に裸の人からなお着物をはぎ取った。／渴き果てた人に水を与えず／飢えた人に食べ物拒んだ。(ヨブ22:5)とツォファルの言葉に同調したように、追い打ちをかけてヨブを責め、神に従い、神と和解せよと、諭します。

ビルダドはまして人間は蛆虫／人の子は虫けらにすぎない。(ヨブ25:6)と神の支配に服せと言います。

ツォファルは疲れ果てたのか、何も言えません。

ヨブは友人たちから何の慰めも助けも得られず、ただ断罪されるだけでした。そして、神にのみ、すがろうと思いますが、どうしたら、その方を見いだせるのか。(ヨブ23:3)と苦しみます。また、断じて、あなたたちを正しいとはしない。死に至るまで、わたしは潔白を主張する。／わたしは自らの正しさに固執して譲らない。一日たりとも心に恥じるころはない。(ヨブ27:5)と、友人たちを徹底的に批判します。自分自身の正しさを主張し、神の前に立ち、裁きを求めて、神についてさらに語ろうとします。